

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 3 年 6 月 1 日 報告者：蒲澤 康晃

行事種別	研究会	行事番号	210000294	
開催日	令和 3 年 5 月 22 日 (土)~6 月 4 日 (金)			
時間	開始	***	終了	***
場所	オンデマンド配信 (Web 録画)			
テーマ	形態から学ぶ急性骨髄性白血病 前編			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点 (レポート提出した日臨技技師会員のみ付与)			
司会	***			
講師	<p>1. 「FAB 分類と WHO 分類の違い、FAB 分類 M3 の基礎」</p> <p style="text-align: right;">国立医療機構 名古屋医療センター 後藤 勇也</p> <p>2. 「FAB 分類 M0、M6、M7 の基礎」</p> <p style="text-align: right;">愛知医科大学病院 鈴木 崇峰</p>			
内容	<p>はじめに急性骨髄性白血病の FAB 分類と WHO 分類の違いについて解説した。各講演は 2 名の講師により FAB 分類において細胞形態が似ている症例毎に特徴的な形態、特殊染色、FCM、遺伝子検査などの鑑別ポイントや正常骨髄との違いを分かりやすく解説を行った。アトラスだけでは、学べない実際の現場で遭遇する細胞、疾患について講義を行い、これから血液検査に関わる技師をはじめ、経験豊かな技師にとっても大変意義のある内容であったと思う。アンケート内容からでも非常にわかりやすかった等好評であった。</p>			
参加者	総数：247 名 (会員 172 名、県外会員 75 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	特になし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 3 年 8 月 13 日 報告者：蒲澤 康晃

行事種別	研究会	行事番号	210001341	
開催日	令和 3 年 7 月 17 日 (土)~7 月 30 日 (金)			
時間	開始	***	終了	***
場所	オンデマンド配信 (Web 録画)			
テーマ	形態から学ぶ急性骨髄性白血病 後編			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点 (レポート提出した日臨技技師会員のみ付与)			
司会	***			
講師	1. 「M1,M2,M4,M5 について」 2. 「反復性遺伝性変異を伴う AML について」 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 白木 涼			
内容	<p>講演 1 では形態や特殊染色の結果が似ている M1,M2,M4,M5 の鑑別ポイントの解説を行った。実症例の画像を用いて、同じ分類の症例でも細胞の見え方の違いを細かく、解説し、受講者には分かりやすかったと思う。</p> <p>実際の現場で遭遇した症例の写真を用いることで、普段参考にしているアトラスとは違った、より臨床での感覚で受講できたのではないかと思う。講演 2 では WHO 分類で定義されている反復性遺伝子変異の種類やその特徴を解説した。現在、白血病分類は形態的特徴から分類する FAB 分類から染色体・遺伝子学的に考慮した WHO 分類に移行してきている。染色体・遺伝子の基礎的な事から各症例事の解説がされており、受講者にとって非常にわかりやすかったのではないかと思う。</p> <p>アンケート結果からも非常に好評であった。</p>			
参加者	総数：113 名 (会員 87 名、県外会員 26 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	特になし			

2021.8.13

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 3 年 11 月 17 日 報告者：蒲澤 康晃

行事種別	講演会	行事番号	2100007493	
開催日	令和 3 年 10 月 16 日 (土)~10 月 30 日 (土)			
時間	開始	***	終了	***
場所	オンデマンド配信 (Web 録画)			
テーマ	凝固時間検査の測定原理を学び、結果解釈に活かそう			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点 (レポート提出した日臨技技師会員のみ付与)			
司会	***			
講師	<p>1. 「血友病治療の新時代」 名古屋大学医学部附属病院 輸血部 講師 鈴木 伸明</p> <p>2. 「凝固時間検査の測定原理について」 藤田医科大学病院 佐藤 聖子</p> <p>3. 「結果解釈に苦慮した症例」 豊田厚生病院 藤上 卓馬</p>			
内容	<p>講演 1 では臨床の医師より血友病の新治療薬としてヘムライブラについて講演をして頂いた。血友病治療の変遷をわかりやすく説明してくれてヘムライブラを使用することにより、患者の OQL が今までより向上したことも分かった。検査ではヘムライブラを使用することにより APTT が過度に短縮することが分かった。日常検査する側としては実際患者を診ることはないで、とても貴重な内容であった。</p> <p>講演 2 では凝固系の測定原理、特に APTT の測定原理についての内容と凝固系検査値が結果解釈に苦慮した症例の提示を行った。クロスミキシングにより LA が疑われたが、PT も低値であり LA 陽性で LAHPS ではないかとの診断に至った経緯について詳しく解説をした。受講者からは、難しかったとの声もあったが、大変興味を持ってた、わかりやすかった等の声も多く有意義な講演であったと思う。</p>			
参加者	総数：72 名 (会員 54 名、県外会員 18 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	特になし			

2021.11.17

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 4 年 3 月 6 日 報告者：蒲澤 康晃

行事種別	研究会	行事番号	210016358	
開催日	令和 4 年 2 月 19 日 (土)~3 月 4 日 (金)			
時間	開始	***	終了	***
場所	オンデマンド配信 (Web 録画)			
テーマ	令和 3 年度愛臨技精度管理報告会、血液検査分野における ISO15189 の取り組みについて			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点 (レポート提出した日臨技技師会員のみ付与)			
司会	***			
講師	<p>1. 「令和 3 年度精度管理調査結果報告」</p> <p style="text-align: right;">株式会社グッドライフデザイン 加藤 太一 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 藤上 卓馬</p> <p>2. 「血液検査分野における ISO 15189 取得と取り組み」</p> <p style="text-align: right;">国立医療機構 名古屋医療センター 棚橋 真規夫</p>			
内容	<p>講演 1 では血液検査部門における令和 3 年度精度管理調査の結果報告と解説を担当者から行った。血球計数分野では各機種別のデータ解析を行い、2SD 外れている施設に対しては日常検査における精度管理の重要性を認識して頂けたかと思う。形態部門では各設問における細胞観察のポイントなど詳しく解説し、症例数が少ない施設にとっては有意義であったと思う。</p> <p>講演 2 では医療法改正後、診療、施設の実情に応じた精度管理の確保がさらに求められ、認証制度および精度管理調査が必要になりつつある。臨床検査の品質と技術能力を評価する国際規格である「ISO 15189」があり、その認定取得施設の取り組みを紹介してもらった。現在取得している施設も、これから取得予定の施設にとっても非常に有意義であったと思う。</p>			
参加者	総数：99 名 (会員 82 名、県外会員 17 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	特になし			